

## 「ライト ライトル！」



今季3チーム目の勝利は初優勝！ #448



シリーズランキングはトップ #210



今季3回目の3位 #45



4位完走 #145



残念ながら序盤でリタイヤ #327

いやいやカープファンの皆様おめでとうございます、25年ぶりのリーグ制覇。レポート担当者の個人的な印象を言うと年がバレるのですが、広島といえばやはり、高橋慶彦のしぶといバツティングと足。正田のいやらしい(失礼:褒め言葉です)ヒット。年代は多少遡りますが、“3番ライト ライトル”と言われた強肩強打の助っ人あたりを思い出しますね。

さあそんな思い出に浸っている間にも、2016年K耐久東海シリーズは第4戦を迎えた。前日までの雨は上がり、4時間戦にふさわしい太陽が照りつける。

### 「NN-B」クラス(軽NAのノーマルクラス ビギナー)

ビギナークラスはこれまでのところ#210「ZEST 遠心ミラ DXL」がランキングトップ、追いかける#74「アルジェンターアルト」が今大会出場していないため、他チームはポイントを稼ぐチャンス。

7台がエントリー、最後にゴールで笑うのはどのチームか。

#### ■予選

予選トップは#149「K4EP アルト 149R」1' 12.010、初出場となった前戦より大幅タイムアップして初のクラストップをマーク。決勝でも注目だ。

2位は#448「スピアヘッドミニカ」1' 13.099、こちらも注目。前戦では初表彰台を2位で飾っており、次に目指すのはもちろん頂点。3位は#45「インフィニティーアルト」1' 13.722 今季は3位を2回獲得しており、更に上を狙う。

4位#16「愛知工科大学 DXL アルト 2号」1' 13.981、今季初出場の学生チーム。5位#210「ZEST 遠心ミラ DXL」1' 14.196、現在のポイントリーダーはこの位置。6位#327「テラテラボフアルト」1' 14.400、7位#145「ざーまえビート」1' 30.831で全車予選通過。

#### ■序盤

序盤から激しいトップ争いが展開。トップを行くのは#448「スピアヘッドミニカ」だが、#16「愛知工科大学 DXL アルト 2号」、#149「K4EP アルト 149R」が5秒差で追いかける。

4位は#210「ZEST 遠心ミラ DXL」、ラップタイム的には約1秒の差があるが、持ち前のしぶとさで食らいつきたい。

5位#45「インフィニティーアルト」1' 13.722、こちらもしぶとさが信条のチーム。6位#145「ざーまえビート」といったオーダー。#327「テラテラボフアルト」は残念ながら13Lapでリタイヤとなってしまった。

#### ■中盤

中盤でも上位勢は同一周回で激しくバトル。順位こそ入れ替わるが#448「スピアヘッドミニカ」だが、#16「愛知工科大学 DXL アルト 2号」、#149「K4EP アルト 149R」の三つ巴。

#210「ZEST 遠心ミラ DXL」、#45「インフィニティーアルト」は1Lap差でトップグループを追う。こちらも激しく争いながら、隙きあらばトップ3台を追い落とそうと虎視眈々。

序盤少しペースの上がらなかった6位#145「ざーまえビート」もしっかり走行中。

# Race Report

## ■終盤

今回は4時間戦、残り1時間の時点で、トップを行く#448「スピアヘッドミニカ」が135Lap。#149「K4EP アルト 149R」133Lap、#16「愛知工科大学 DXL アルト 2号」131Lap、#210「ZEST 遠心ミラDXL」130Lap、このあたりが優勝から表彰台をかけての主役か。

#45「インフィニティーアルト」126Lap、なんとか離れずついていきたい。#145「ざーまえビート」119Lap、規定周回数は十分クリアするペース。

## ■最終結果

175Lapを走った#448「スピアヘッドミニカ」が見事初優勝。前戦の2位を超えて初の頂上に立った。

2位は170Lapで#210「ZEST 遠心ミラDXL」。途中ペナルティなどもあったが、持ち前のしぶとさを発揮して2位に食い込んだ。3位は168Lapでこちらもしぶとい#45「インフィニティーアルト」が今季3回目の3位。4位は見事完走の#145「ざーまえビート」157Lap。

174Lapを走った#149「K4EP アルト 149R」だったが、痛恨のアンダータイムで賞典外。173Lapの#16「愛知工科大学 DXL アルト 2号」は車両規定違反でこちらも賞典外。

## ■総評

灼熱の4時間戦が終わった。シリーズは25Pの上積みをした#210「ZEST 遠心ミラDXL」が70Pとし初のチャンピオンにかなり前進。シリーズ2位には#45「インフィニティーアルト」が54Pでつけており、年間タイトル争いはこの2チームに絞られた。

ともにしぶとさが特徴のチーム。一発のタイムは無いが、ペースをまとめてしっかりと走りきるという耐久のお手本のようなレース運びが印象的。

シーズンも残るは最終戦のみ、カーブのように感動的なフィナーレを飾るのはどちらのチームか。



アンダータイム規定による賞典外 #149



車両規定違反で賞典外 #16



勝ちました!!!



ビギナークラス



今季初参加で優勝！ #13



3連続2位でトップとは7P差 #5



シリーズ首位キープ #10



今回は4位 #33



5位完走扱い #6

## 「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

ノーマルの「エキスパート」クラスは5台が出走。ここまでのところ#10「FAST OUT 最速アルト」が一步リード、それを10P差で#5「Baden PROJECT Kアルト」が追うというのがシリーズの流れ。この4時間戦が終わったあとはどんな事になっているか。

### ■予選

予選トップは#10「FAST OUT 最速アルト」1'09.538、文字通り重しが取れたか指定席に帰ってきて今季3回目のクラストップ。

2位は#5「Baden PROJECT Kアルト」が1'09.696、今回はカラーリングも施され狙うは初優勝。3位には#13「愛知工科大 DXLアルト1号」1'10.482。4位#33「TimelyアルトIDI」1'11.664。5位#6「ROCKYRACINGアルト」1'12.178という予選結果。

### ■序盤

最初のスティントはほぼ横一闪、トップは#10「FAST OUT 最速アルト」だが、#5「Baden PROJECT Kアルト」、#13「愛知工科大 DXLアルト1号」とも同一周回でぴったりマーク。

4位#33「TimelyアルトIDI」と5位#6「ROCKYRACINGアルト」は1Lap差で追走。このあたりはマシンの差が殆ど無いNNクラスらしい、ドライバー力&チーム力のバトルだ。

### ■中盤

中盤でも接戦、首位は#10「FAST OUT 最速アルト」、2位#5「Baden PROJECT Kアルト」、3位#13「愛知工科大 DXLアルト1号」、4位#33「TimelyアルトIDI」、5位#6「ROCKYRACINGアルト」の順。とはいえ首位から5位までが2Lapという僅差。各チームのピット戦略の差こそあれ、コース上では激しい鏝迫り合いが続いている。まだまだレースは半分以上残っている。

### ■終盤

そろそろ灼熱の暑さもひきかけた4時前。#10「FAST OUT 最速アルト」が首位キープで140Lap、2位は#5「Baden PROJECT Kアルト」138Lap、3位#13「愛知工科大 DXLアルト1号」も138Lap、4位#6「ROCKYRACINGアルト」、5位#33「TimelyアルトIDI」がともに135Lap。

上位3台は2Lap差、5位までは5Lap差というかなり詰まった戦いを続けている。さあ残りは1時間、どのチームも集中力を保ってほしい。

そんななか、#13「愛知工科大 DXLアルト1号」が異音とともに緊急ピットイン。他クラスのマシンと接触した影響からか、マフラーが脱落してカラカラと引きずっている。応急処置をしてコースに復帰。

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■最終結果

さあチェッカー、最終的に接戦を制したのは#13「愛知工科大 DXL アルト1号」、最終盤にもマフラーが脱落してもう一度応急処置を施す場面が見られたが、なんとか振り切って優勝。今年のメンバーでは初勝利となった。

2位は1Lap 差で涙のんだ#5「Baden PROJECT K アルト」、これで3戦連続2位。3位は途中までは首位を走っていた#10「FAST OUT 最速アルト」という結果。4位は#33「Timely アルト IDI」。6位#6「ROCKYRACING アルト」は終盤にオイル漏れのトラブル、懸命の修復を試みるが、ピットでのチェッカーを迎え規定により最下位完走。

## ■総評

優勝は逃したが、3位に入り22PをGetした#10「FAST OUT 最速アルト」が74Pとシトップを堅持。2位に入って25Pを加え67Pととした#5「Baden PROJECT K アルト」はその差を7Pに縮めることに成功。タイトルの権利はこの2チームに絞られた。

トラブルで止まってしまった6位#6「ROCKYRACING アルト」を除き、すべてのチームがビギナークラスを上回り、さすがのエキスパートというところを今回も見せてくれた。



マフラー脱落で最終盤はヒヤットしたが



こちらはチェッカーに間に合わず



うちはバンパーだけ



Dr.だけでなくメカやチームのおかげです



エキスパートクラス



ここ一番で力を見せつけた！！ #25

## NCクラス（軽NAのクロードクラス）

第3戦では”絶対王者”#25「アカミネコマル2トゥディ」が思わぬマシントラブルで落とした。このレースでしっかり2位に入った#66「VISCANTIトゥディ」がポイントでは並ぶ格好に。優勝回数では#25が上をいき有利ではあるが、#66にとっては”絶対王政”を倒しての政権交代のチャンス。もちろんそのためには勝利が必要だ。

### ■予選

予選トップは#66「VISCANTIトゥディ」1'08.1717、革命への第一歩はまず成功。2位には#25「アカミネコマル2トゥディ」1'08.740、王者の底力を見せるか、このまま革命勢力に押し切られるか。3位は#950「KSS-TODAY」1'09.207、前戦より大幅タイムアップ、赤バッチも眩しいタイプR仕様。4位#91「BRP★KCアルトバンNA」1'10.939。

### ■序盤

最初のステントでまずピット・インしたのは#66「VISCANTIトゥディ」、#25「アカミネコマル2トゥディ」はそのままステイアウトでトップキープ。2位には#950「KSS-TODAY」がつける。3位#91「BRP★KCアルトバンNA」。#66「VISCANTIトゥディ」が先手を打って、王者が迎え撃つ構図。

### ■中盤

中盤ではやはり予想通り、トップ2台の争いに。前を行くのが王者#25「アカミネコマル2トゥディ」、2位#66「VISCANTIトゥディ」。これまで幾度となくバトルを繰り返してきたライバル同士、いうなれば現代の川中島、巨人の星か。まだまだレースは半分にもいっていない。

最終コーナーで#66「VISCANTIトゥディ」が他クラスのマシンに押し出され、グリーン上を走行する一幕も。結果押し出した方にペナルティが課されたが、#66はギリギリでコントロールコースアウト等は免れた。

3位は#91「BRP★KCアルトバンNA」、4位#950「KSS-TODAY」



悔しいがまだチャンスはある #66



自己最高位3位 #950



今回は同一周回で4位 #91



グリーン走行では落ち着いてコントロール

# Race Report

## ■終盤

終盤でも2強の争いは続くが、#25「アカミネコマル2トゥディ」がじわじわと引き離しにかかる。143Lapと142Lap、その差は1Lap。#66「VISCONTIトゥディ」はここで遅れる訳にはいかない。

首位争いだけじゃない、3,4位争いもここに来て白熱。3位#950「KSS-TODAY」と#91「BRP★KCアルトバンNA」は140Lapと同一周回！勝ったほうが表彰台というこちらの争いも最後までわからないぞ。

## ■最終結果

4時間という長丁場のレースを制したのは、#25「アカミネコマル2トゥディ」が最後までトップを守り優勝、絶対王者の力を見せつけた。

2位は2Lap差で#66「VISCONTIトゥディ」、追い込んだが及ばなかった。

大激戦の3位争いは同一周回で決着、#950「KSS-TODAY」が35秒差でフィニッシュ。参戦2戦目でポディウム。

#91「BRP★KCアルトバンNA」には実に惜しい結果。

## ■総評

絶対王者が、ここの一番で横綱相撲を見せて70Pに。#66「VISCONTIトゥディ」は一步後退の65Pだが、まだまだ逆転の可能性も。

3位は#950「KSS-TODAY」が嬉しい自己最高位。クラス唯一のアルトを走らす#91「BRP★KCアルトバンNA」、今回は本当に接戦だった。

さあ次は今シーズン最後のバトル、刮目せよ。



「勝利を我が手に」最後のステイントに向かう



ロメオのサポートカー、それも軽バン！？



スパ西から米&味噌汁の副賞が！



NC クラス





ライバルたちに後ろ姿を見せつける #38



シリーズも 2 位 #34



苦しみながらも 3 位表彰台 #35



見事チャンピオンを決めた！！



## NOクラス (軽NAのオープンクラス)

大幅リードでチャンピオン街道を行く#38「デモリッションエグゼトウディ」、今日勝てば文句なしのタイトルが決定する。全 3 チームが参加。

### ■予選

予選トップは、#38「デモリッションエグゼトウディ」1'05.438。2 番手は#34「JK ガチャピントウディ」1'07.949、3 番手は#35「JK ブルビート」1'09.706。

### ■序盤

まずトップを奪ったのは#38「デモリッションエグゼトウディ」、そしていつものように早めのピット戦略で一旦 3 番手に下がる。その間にトップに立つのは#34「JK ガチャピントウディ」。見かけ上の 2 位は#35「JK ブルビート」。

### ■中盤

中盤は#38「デモリッションエグゼトウディ」が全体のトップを走行。2 位#34「JK ガチャピントウディ」と 3 位#35「JK ブルビート」の間も少し離れてのそれぞれが自分との戦い。#34 に関しては他クラスのマシンの進路を妨害した理由でペナルティが与えられた。

### ■終盤

終盤になっても手綱を緩めない#38「デモリッションエグゼトウディ」は、総合トップのまま最後のステイントに入る。2 位#34「JK ガチャピントウディ」も自らのペースを守る。#35「JK ブルビート」にはトラブルが襲う…スロー走行やスピンなどもあって、なんとかゴールへと持っていきたい。

### ■最終結果

#38「デモリッションエグゼトウディ」がブッチギリで総合チェッカー！シリーズタイトルも決定。#34「JK ガチャピントウディ」が 2 位、満身創痍だった#35「JK ブルビート」も規定周回数クリアで 3 位完走。

### ■総評

台数は少なかったが#38「デモリッションエグゼトウディ」が見事な走りでタイトル獲得。#34「JK ガチャピントウディ」が 2 位となっている。



NO クラス



ここ一番で初優勝！！ #28



僅差の2位争いを制した #93



3位でシリーズ首位キープ #330



表彰台まであと一歩 #95

## TCクラス（軽過給機のクローズド）

ここまでフルマーク 60P でランキングトップを行く#330「DIXCEL コンパーノミラ」、ここでも勝てば文句なく連覇が決まる。それを止める有力候補は#28「BLAST ヴィヴィオ」で現在 39P、そして 37P の#93「藤枝マリンダイビングアルト」。今大会の4時間戦には久々の#392「Zammers ヴィヴィオ」も含め全6台が参加。

### ■予選

予選トップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」1' 05.433、連続クラストップ。2位は#28「BLAST ヴィヴィオ」1' 05.626、こちらも05秒台に入れてきた。3位は#330「DIXCEL コンパーノミラ」1' 07.858、今回もリミットいっぱいウエイト。4位久々#392「Zammers ヴィヴィオ」1' 08.469、元祖ヴィヴィオ遣い見参！5位#95「KHK KEI」1' 10.419。最後列は#69「モモヤマレーシングアルト」1' 15.303、トラブルなのか少々心配だ。

### ■序盤

最初のステイントは#93「藤枝マリンダイビングアルト」、#28「BLAST ヴィヴィオ」がトップ争い、それに#330「DIXCEL コンパーノミラ」が加わり第1集団を形成。第2集団は#69「モモヤマレーシングアルト」、#392「Zammers ヴィヴィオ」、#95「KHK KEI」。予選で遅れた#69「モモヤマレーシングアルト」だったが、無事にレースを進行している。

### ■中盤

中盤戦に入っても、2台はトップ争い。先行は#28「BLAST ヴィヴィオ」、それを#93「藤枝マリンダイビングアルト」が追う。3番手#330「DIXCEL コンパーノミラ」は、見慣れた展開。ただし、今回は4時間戦。ピットストップが一回少ない新規格車といえどもそのアドバンテージは3時間戦よりは少ない。いつものように終盤にトップ浮上するには、中盤での頑張りポイントとなる。4番手#69「モモヤマレーシングアルト」、5番手#95「KHK KEI」。6番手#392「Zammers ヴィヴィオ」が少しずつ遅れ始めた。

### ■終盤

ゴールまで残り一時間、#28「BLAST ヴィヴィオ」148Lapでトップを行く。2番手にはお約束どおり#330「DIXCEL コンパーノミラ」が浮上で146Lap。ただしこの時点では首位までは届いていない。3番手#93「藤枝マリンダイビングアルト」も146Lap、このあたりはまだまだ順位の変動がありそうだ。4番手#95「KHK KEI」143Lap、5番手#69「モモヤマレーシングアルト」142Lap、6番手#392「Zammers ヴィヴィオ」138Lap。優勝争いは上位3台に絞られた感もあるが、第2集団もそれぞれに僅差の争いをしており、一つでも上の順位を狙っている。



# Race Report



## ■最終結果

#28「BLAST ヴィヴィオ」が192Lapを走って見事初優勝！2位には190Lapの同一周回バトルを制して#93「藤枝マリンダイビングアルト」が2戦ぶりの表彰台。3位は40秒ほど届かなかった#330「DIXCEL コンパーノミラ」。4位は#95「KHK KEI」186Lap、5位#69「モモヤマレーシングアルト」184Lap、6位#392「Zammers ヴィヴィオ」181Lapで全車見事に完走。

## ■総評

4時間戦では、いつもとは勝手が違って”気がつけばトップ作戦”が発動しなかった#330「DIXCEL コンパーノミラ」だったが、しっかり表彰台は確保して82Pまで伸ばしてランク首位は守る。

前戦で優勝がほしいと述べた#28「BLAST ヴィヴィオ」、”予言”どおり初優勝。その差13Pまで詰めた、最終戦での逆転があるか。

#93「藤枝マリンダイビングアルト」は残念ながら数字上のチャンスはなくなった。



5位 #69



久々の参加で6位 #392



TC クラス





2 勝目だがタイトルには届かず！ #23



2 位表彰台 #777



タイトル奪還 #32



ブレーキ対策が活きたか



## TOクラス（軽過給機のオープンクラス）

#32「爆走あばれ馬ミニカ」がランキングトップで迎えた。一方#23「Jatsun アルト」は優勝かりタイヤかで来ている、順番で言えば優勝だが...

それに加え開幕戦以来の出場となった#777「鳴海ファクトリーアルト」を加え3台のエントリー。

### ■予選

ポールは#23「Jatsun アルト」は1'04.677、ひとり04秒台に入れた、やはり速い。フロントローを分けたのは、#32「爆走あばれ馬ミニカ」が1'05.160。#777「鳴海ファクトリーアルト」は3位で1'06.444。

### ■序盤

序盤から#23「Jatsun アルト」が先行、#32「爆走あばれ馬ミニカ」がそれを追う。#777「鳴海ファクトリーアルト」もピッタリとマーク。台数は少ないが濃密バトルだ。

### ■中盤

#23「Jatsun アルト」にとっては鬼門の中盤戦。今回はじわじわと引き離しにかかる。2位争いは僅差だが#777「鳴海ファクトリーアルト」が前に出たようだ。#32「爆走あばれ馬ミニカ」も離れずについていく。

### ■終盤

終盤は#777「鳴海ファクトリーアルト」が久々のトップ走行。最後のステントでも踏ん張れば久々の美酒だ。#23「Jatsun アルト」が再逆転のチャンス狙う。#32「爆走あばれ馬ミニカ」にとってはリタイヤノーポイントは絶対に避けたい。

### ■最終結果

法則通り#23「Jatsun アルト」が2戦ぶりの勝利。2位には#777「鳴海ファクトリーアルト」がはいり、最後はペースをコントロールした#32「爆走あばれ馬ミニカ」。

### ■総評

77Pまで伸ばした#32「爆走あばれ馬ミニカ」がタイトル決定。#23「Jatsun アルト」は途中のリタイヤが痛かったが、やはり速い。最終戦でも改造車の醍醐味を見せて欲しい。



TOクラス